

栄唱の間

栄唱の間は後樂園能舞台を見渡すように設えられています。舞台に面した周囲の建物ともども、お客をもてなし、能を見るための場所として使用されました。この部屋は延養亭や鶴鳴館など周囲の建物と廊下でつながっています。

1691年に建てられた翠庭という建物が、最終的に栄唱の間となる建物の原形です。大名池田綱政（1638－1714）が個人的に能を演じていたので、当時、翠庭の和室は能の上演に使用されました。栄唱の間が建てられたのは、近くの岡山城に能舞台が建造された12年後の1707年、後樂園にも舞台が造られたときです。能舞台は第二次世界大戦時の空襲で大きな被害を受けましたが、1958年に再建されました。栄唱の間は舞台の西側にあるもう一つの見所である墨流しの間ともども、1967年に再建されました。

通例は大名が座って能を見た、床の間の前の畳に設えられた座席は、能舞台の背景に描かれた松の古木を真正面に眺められる席です。他の観客も同席する場合、大名を中央にして、序列順に座りました。大名の一族もこの場所での能の鑑賞に客として招かれました。

栄唱の間の引き戸が開けられているときには、この場所を訪れる人は、二色が岡の林を背景にした花葉の池の静謐な眺めを楽しむことができます。